

彼女は、パウロや私たちの後ろに付いて来てこう叫ぶのであった。「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」彼女がこんなことを幾日も繰り返すので、パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」すると即座に、霊が彼女から出て行った。(使徒 16:17 ~18)

「ローマ人である私たちが受け入れることも、行うことも許されない風習を宣伝しているのです。」群衆も一緒になって二人を責め立てたので、高官たちは二人の衣服をはぎ取り、鞭で打つように命じた。そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に入れ、看守に厳重に見張るように命じた。この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。(使徒 16:21 ~24)

パウロ、シラス、テモテの三人は、ローマの植民市フィリピに来た。パウロがユダヤ教徒たちの野外礼拝をする祈りの場に行き、集まっている人たちに福音を語った。熱心に聞いていたリディアという女性が心を開いて福音を信じ、家族の者と共に洗礼を受けた。マケドニア、ヨーロッパ宣教における最初の信者となった人である。

三人が再び、祈りの場に行こうとしていたら、占いの霊に取りつかれ、占いをして、主人たちに多くの利益を得させていた女奴隷がいた。彼女は三人の後ろに付いて来て、「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです」と叫び続けた。汚れた霊に取りつかれた人が主イエスに出会った時、主イエスに聖なるものを見て、恐れ苦しんでいたが、パウロたちの場合も同じように、「いと高き神の僕で、救いを宣べ伝えている」と、三人の本質を見抜いている。彼女が、幾日も繰り返して叫ぶので、パウロは、「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け」と命じた。すると直ぐに、彼女から占いの霊が出て行った。主イエスが起こした奇跡と同じように、取り付かれていた占いの霊を追放した。

ところが、女奴隷の主人たちは、彼女に取り付いていた占いの霊が取り去られ、占いができなくなったので、金儲けの望みが絶たれた。怒った主人たちはパウロとシラスを捕え、広場の役人の所へ引き立てて行った。そして、二人を高官の前に引き出して、「この者たちはユダヤ人で、私たちの町を混乱させております。ローマ人である私たちが受け入れることも、行うことも許されない風習を宣伝しているのです」と訴えた。フィリピはローマの植民市でローマの文化、風習が自明のことで、固く守られていた。そこへ、ユダヤ人が来て、別の神を宣教し、別の風習を宣伝している。それは、騒乱を持ち込み、他国の宗教の導入で、許せないことであった。主人たちは、この騒乱と違法を訴えたのである。群衆も一緒になって、二人を責めたので、高官たちは二人の衣服を剥ぎ取り、鞭で打つように命じた。何度も鞭打ってから、牢に入れた。弁明は一切認められず、一方的な迫害を受けているが、これが、ローマの植民市を誇り、ユダヤ人を蔑視するフィリピの高官たちのやり方であった。パウロが、Iテサロニケ2章2節で「私たちは以前フィリピで苦しめられ、辱められました」と書いてある通り、予期せぬ苦難を受けている。牢の看守は、厳重に見張るように命じられたので、牢の一番奥にいれ、逃げ出さないように、足に木の足枷をはめた。パウロとシラスはフィリピで暴力的に投獄されてしまった。